

令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

古墳のかげり 群馬の誇り

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 3組 5番

氏名 岡部光哉

## I. レポート作成の動機

古墳時代群馬県は東国文化の中心地として栄えていました。詳しい事がわかる資料などはありますが、わかりやすい証拠は古墳だと思います。群馬県は古墳の数や質どれを取ってもレベルが高いです。しかし、古墳の数が多いところや、古墳の質が良いところならほかの地域にもあります。しかし、群馬県は東国文化の中心地と呼ばれています。つまり、群馬県には、「何か他の地域にはない特別なもの」があると考えました。そして今回、埴輪を中心に調べていきたいと思います。

### 〈テーマと自分の予想〉

今回の僕のテーマは、『古墳時代の群馬県の地域はどのくらい繁栄していたのだろうか？群馬県と他の地域の違いはなんだったのか？』という事です。古墳時代は、ヤマト王権が権力を持っていました。ただ、当時東国文化の中心地であった群馬県はどうだったのか、また今の群馬県のように何か他の地域と比べ変わった自慢ができるような特徴があったのか疑問に思いました。僕は群馬県が東国文化の中心地となった理由を調べるときに、下の三つの仮説をたてました。

1. 独自の文化があったので、貿易がしやすかったのではないかな
2. 渡来人と多く交流していたのではないかな。
3. その地域を支配していた豪族の力が強かったのではないかな。

この仮説が正しかったのかを確かめるために、様々なところから調べてみました。

## II. 群馬県が東国文化の中心地として栄えた理由

この頃他の地域は、ヤマト王権に従い貢物をしているのが一般的でした。ですが群馬県のように何か特別なものを持っている地域は強い権力を持つことができました。その証拠となるものが古墳です。古墳はその人の権力を示せるようなことがたくさんあります。例えば大きさです。古墳の大きさが大きければ大きいほどその人の権力は強く、支配をしている範囲も広いという事になります。さらに、古墳には副葬品があり副葬品でも権力が分かります。副葬品は埋葬された人物の力の強さや、後継者の権威を表すものが多いです。他にも権力などを示すものがあります。それは「かたち」です。古墳の形には、様々な意味や、入る人の対象などが分かります。古墳の形でとてもメジャーなのは円墳(図1 丸墓山古墳)・方墳(図2 岩屋古墳)群馬県にもある珍しい古墳は八角墳(図3 三津屋古墳)この古墳は大王の位にあたる人が入っているとされています。



図 1

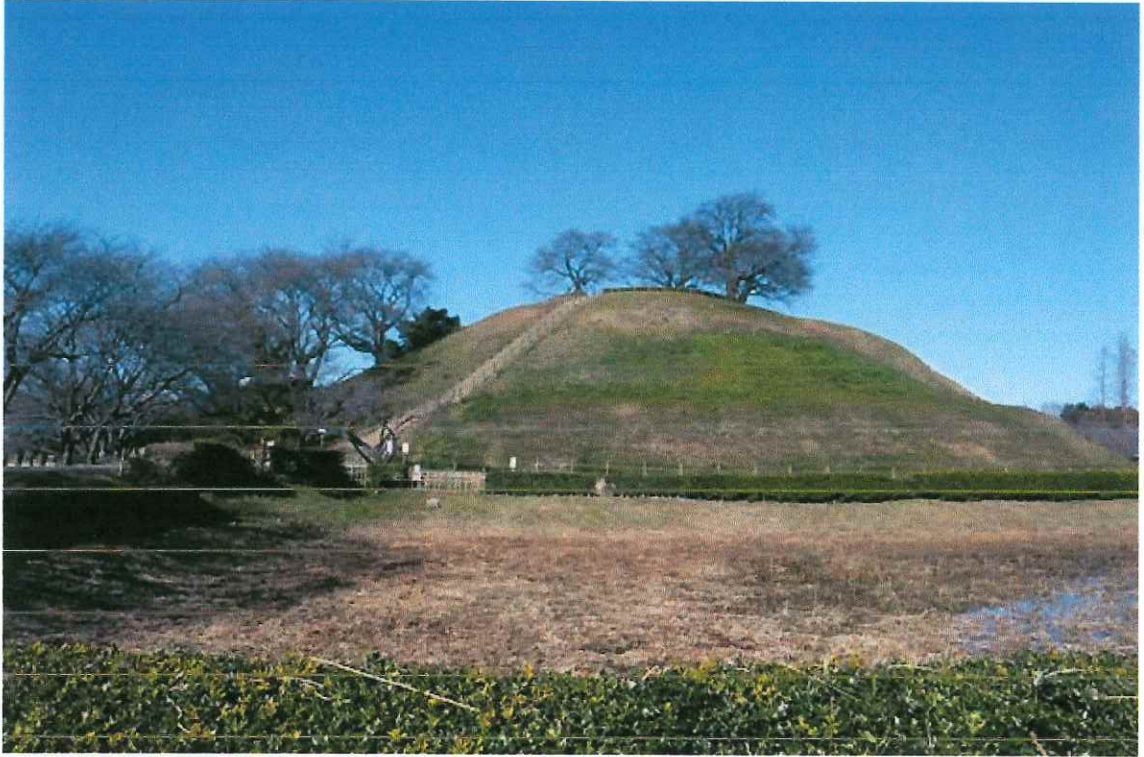


図 2





図3



そして日本各地で見られる日本特有の古墳が前方後円墳。2019年仁徳天皇陵がユネスコの世界文化遺産に登録されたので有名になりました。群馬県は古墳の数が多く、1万3249基ありました。このうち2434基現存していることがわかっています。このことから群馬県は渡来人を多く受け入れていて、古墳の作り方などを広い地域で学んでいたと思います。つまり群馬県は渡来人と多く交流していたことが分かります。

前方後円墳はヤマト王権に認められた地域でしか作ることが出来ません。ですが、群馬県には東日本で最大級の古墳の天神山古墳(図4)この古墳は全国でもトップクラスの大きさを誇ります。つまりこの古墳ように大きい古墳があればあるほどその地域は権力が強いという事になります。たくさんの大きな古墳やたくさんの前方後円墳がある群馬県は、権力を持っている豪族が多かったという事が分かります。なぜこのような権力を持った豪族が群馬県にいたかその理由は2つあると思います。

1つは交通の面です。群馬県は信越地方と関東の道をつないだり、旧石器時代まだ開拓されていなかった、東北地方への交通の要となり、人口が集中しました。その結果として権力を争う豪族などが現れたため群馬県は、権力の強い豪族多い地域となりました。

2つめ目は貢物の面です。ヤマト王権は、百済と同盟を結び高句麗へ出兵に向かった際、高句麗の騎馬隊の圧倒的な火力、馬の速さや力を目の当たりにしました。そこでヤマト王権は朝鮮から馬を取り寄せて農業の労働力として活用しました。このような馬の生産を、元から馬が育てやすい土地だったり、馬を育てられるような技術者がいたため、群馬県は馬の生産に力をいれました。地域をあげて取り組んだ古代群馬県は日本の中でも、有数の馬の生産地となりました。そのおかげで古代群馬県はヤマト王権に認められ



東日本の中でも大都会といえるような地域へと成長しました。

図 4



このような2つの理由で群馬県には、強い権力を持っている豪族が多数出現しました。その結果として、天神山古墳などのとても規模の大きい古墳が作られたため、群馬県は埴輪を大量に製作することが出来る熟練技術者が育ち、今の群馬県は埴輪王国と呼ばれるようになりました。

### Ⅲ. 主な埴輪について

そもそも埴輪とは何でしょう？起源は古墳を作る際その人と一緒に古墳に埋まり殉死者がいなければならなかったころ、当時の天皇（推古天皇の11世代前の天皇とされている）このようなルールに大変心を痛めてかわりにつくったのがはじまりです。埴輪の構造は基本的には、粘土でできていて、中が空洞で、色は赤茶色になっています。埴輪は古墳の上や周りを囲うように置かれています。これは、聖域を区画するためだと考えられています。埴輪はそれぞれの形で意味を持っていると考えられていて、埴輪の配置が何を表しているかはまだ分かっていません。なので、今埴輪の配置については様々



な説が唱えられています。

埴輪王国の群馬県。『なぜこのような呼ばれ方があるのか?』このような疑問が浮かぶこともあるでしょう。このような疑問の、答えになるような証拠は2つありました。

1つ目は群馬県の埴輪のレベルです。群馬県には埴輪のレベルの高さを示すことが出来るようなとてもすごい埴輪があります。それは「挂甲武人埴輪」です。(図5) この埴輪は日本で雄一国宝に指定されています。この埴輪は、右手にたち、左手に弓持っているような細かい作りになっています。さらに、群馬県には国宝・国指定重要文化財に指定されている埴輪のうちの45%が出土されています。

2つ目は群馬県特有の埴輪です。埴輪は大きく分けて2つに分かれます。1つは円筒埴輪、もう1つは形象埴輪です。群馬県はこの2つのうち形象埴輪に特徴があります。形象埴輪は家形埴輪・器財埴輪・動物埴輪・人物埴輪に分けることができます。この中の動物埴輪の馬型埴輪(図6)は群馬県だけで350例以上出土されています。この量は今まで出土された動物埴輪の約90%を占めています。この埴馬は、財力や軍事力、権威象徴でとても大切な存在でした。なので、このことからたくさんの馬を所持していた古代群馬県はどれ程権力を持っていたかがわかります。古代群馬県は経済の力でも他の地域をリードしていたようです。

図5



図 6



#### IV. 考察

今回僕は、

1. 独自の文化があったので、貿易がしやすかったのではないか。
2. 渡来人と多く交流していたのではないか。
3. その地域を支配していた豪族の力が強かったのではないか。

この3つの仮説を立てて調べていました。

1について群馬県は、元々馬などがとても育ちやすい土地だったという事が分かりました。馬が元々育ちやすいのなら、たくさんの渡来人を呼び、馬をたくさん育てたりすることも可能だったと思われるので、渡来人と深く交流をして、様々な先進文化を取り入れることができたのだと思います。その証拠に群馬県では、馬に関する足跡などがみつかったり、馬型埴輪が様々な場所から大量に出土されたりしています。他にも馬に関する物がみつかっています。このような交流の結果として、群馬県は東国文化の中心地として流行の最先端をいくことで、権がとても強い今でいう大都会のようなすごい地域を維持することが出来たのだと思います。

2については、1で分かった群馬県の馬が作りやすい地域の特色があったことで、交流が出来たという事が分かりました。群馬県は馬が生産しやすかったため、渡来人が馬を連れてくるため、深く、多く交流ができたのだと思いました。その結果として群馬県



は馬の代表的な生産地となったため、ヤマト王権から認められて、大きい古墳や、前方後円墳などを作ることができたのだと思います。さらに、大きい古墳や前方後円墳などの作り方を教えるために来る渡来人とも交流ができたため、たくさんの量の古墳を作ることが出来たのだと思います。他にもたくさんの事もあり、群馬県は埴輪の日本有数の名産地になり、質の高い挂甲武人埴輪などが出土されたり馬型埴輪が大量に出土されたりするような埴輪がたくさん出土される歴史のある、良い地域になったのだと思います。

3については2で分かった群馬県の馬の生産に加えて、古墳時代前に築き上げた交通の利点などがうかびあがりました。群馬県はまだ東北地方が制圧されていなかったころ、関東と信越地方をつなぐ大事な場所だったため、群馬県は徐々に豪族が増えてきました。そんな時に馬の生産を始めたので群馬県にいた豪族がどんどん権力強めていきました。その結果として群馬県にいた豪族の古墳はヤマト王権に認められた者しかはいることができない前方後円墳や大きい古墳などが増えていきました。やはり土地などの利点を活用できる者が得をできる、力を持つことができるのだと思います。さらに、2でも証拠となった馬は、貴重な労働力などにもなるので馬が多いので、馬が多い地域は権力が強かったようです。

以上3つの仮説を通して古墳時代の群馬県の事がよく分かりました。僕は始めたのころ、群馬県はただ埴輪がすごいただけと思っていました。でも、よく調べてみたらほかのところにも負けない自慢できるような特徴がたくさんありました。例えば東日本最大級の天神山古墳や埴輪の中で雄一国宝に指定されている挂甲武人埴輪など他にもたくさんの特徴がありました。群馬県はずっと前から土地の利点を上手く使っていたのは普通の事に見えてもやはりすごい事だと思いました。昔は交流の最先端の先進文化を取り入れていた群馬県は権力が強く、今では想像も出来ません。僕は自分のまだ知らない群馬県の歴史をしれてよかったです。群馬県にはまだまだ知らない歴史の魅力があると思います。なので、これから少しずつでも知っていきたいと思いました。今回調べていてまだまだ群馬県には、魅力のある埴輪や古墳があると思うので、今では少し興味ができています。古墳時代の群馬県には、誇れるような技術者の素晴らしい埴輪などがありました。これから僕はこの素晴らしい、誇れる技術を知らない人に教えてあげられるほど詳しくなれば良いと思いました。



【参考文献】

埴輪 - Wikipedia (最終アクセス日時 令和 2 年 8 月 21 日  
20 : 50 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%B4%E8%BC%AA>)

わつなぎ 埴輪は何のために置かれた？ポーズにも意味がある!?埴輪の種類や意味を  
解説

(最終アクセス日時 令和 2 年 8 月 21 日 21 : 45 URL:  
<https://watsunagi.jp/craft/5426/>)

古墳時代の群馬県 - 東国文化の中心地 (最終アクセス日時 令和 2 年 8 月 21 日  
21 : 50 <https://www.pref.gunma.jp/03/x4500021.html>)

古代、かなり都会だった!?群馬県に古墳が多いヒミツ (最終アクセス日時 令和 2  
年 8 月 21 日 21 : 45 <https://mikata.shingaku.mynavi.jp/article/24292/>)

群馬県 - もっとはにわや古墳について学んでみよう! (最終アクセス日時 令和 2 年  
8 月 21 日 21 : 52 [https://www.pref.gunma.jp/03/c42g\\_00086.html](https://www.pref.gunma.jp/03/c42g_00086.html))

古墳の形 (墳形) (最終アクセス日時 令和 2 年 8 月 21 日 21 : 55  
<http://www2.odn.ne.jp/kofun/katachi.html>)

毎日新聞 古墳 : 群馬県内「東日本随一」 総数 1 万 3249 基 (最終アクセス日時  
令和 2 年 8 月 21 日 21 : 47  
<https://mainichi.jp/articles/20170418/k00/00e/040/194000c>)

古墳時代の人々にとっての馬 (最終アクセス日時 令和 2 年 8 月 21 日 21 : 57  
<https://www.pref.gunma.jp/contents/100156046.pdf#search=%27%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E6%99%82%E4%BB%A3+%E7%BE%A4%E9%A6%AC+%E9%A6%AC%27>

<https://yahoo.jp/FTluVq> 図 1

<https://yahoo.jp/c3XXzV> 図 2

<https://yahoo.jp/5-SbgW> 図 3

<https://yahoo.jp/yHyrLL> 図 4

<https://yahoo.jp/8vCTnz> 図 5 前

<https://yahoo.jp/PA8PCQ> 図 5 後ろ

<https://yahoo.jp/ZfVhKf> 図 6 壱

<https://yahoo.jp/IFzWz3> 図 6 弐